

# 「輝く」編集員も生き生き……

## 輪広がり嬉しい

★編集ボランティア募集の広報掲載をみて参加しました。1号は2人で取材し写真、文章のレイアウト等四苦八苦しながら作成していましたが、プロの講義を聞き直接指導を受け、10号でようやくわかってきたかな？ この「輝く」を読んだ、外に出るきっかけがで、輪が広がったと喜んでもらった事はとても嬉しいです。  
(有賀登喜子)

## 加齢は長い年月生きてきた勲章

★新聞などのインタビューは「時の人」が多いが、私がお会いする方々は、近所ですれ違う普通の高齢者です。際立った人ではないけれど、話を聞くとどこか一味違います。それは加齢という長い年月を生きてきた勲章なのではないでしょうか。  
(羽賀敬晃)

## 悪戦苦闘しつつ

★文章が苦手な私が情報誌の編集員に誘われて「パソコンも勉強できるし、いいかな」と軽く考えて編集員になりました。取材に行き、悪戦苦闘しながら文章を書いていきます。

取材にいくと熱く語ってくれる人、たんたんと言

## 共に楽しむ仲間

人、人それぞれですが、その思いを伝えたいと思っています。  
(箱根早苗)

★「共に楽しむ仲間たち」の紹介を心がけています。1号「男性の地域デビュースタート」。2号「ロビーいっぱい」、歌好きが集まる公民館」。3号「アマチ



寺ヶ池公園でノルディックウォークの講習会で元気に歩く参加者たち

## 記事の反響に感激

★ノルディックポールの記事(9号)を見て家に閉じこもりがちであった上田さん(78歳、男性)は勇気を出して講師の姫岡さんに

電話しました。以来ポールを持って遠くまで出かけるようになったそうです。膝に不安を抱いていた女性はふれあいウォーキングに参加したとの事、お役に立って嬉しいです。  
(松下朝子)

ユア落語クラブ」。5号「手作り作品を販売 ショップシルバー」。8号「青空の下で公園太極拳」などを取材しました。

編集員の私たちも「共に楽しむ仲間」です。  
(桑本幸子)

## 常にワクワク

★インタビューして感じることは、何かに打ち込んでいる人の目は、キラキラ輝いています。取材の楽しさは、このワクワク感にいつも元気をもらっています。「一人でコツコツ」のここが面白い。ぶっつけ本番インタビューいつでもOK。  
(辻野長夫)

## 励みになれば……

★お友達に誘われて顔を出したのが始まりでした。いきなり記事が書けるわけでもありませんでした。編集ボランティアとしての準備、取り組み、話し合ったり、産経新聞編集局の方からのアドバイスを頂いたり……。記事を読んで下さ

る一人ひとりが少しでも励みになり、希望に繋がって欲しいと願っております。  
(西野まり子)

## 紙も電子媒体も良さを生かして

★紙媒体の情報誌は手に取った瞬間、誌面から直接感覚に訴えかけ、記憶や印象に深く残っていきます。電子媒体の情報誌は「だれでも」、「いつでも」、「どこでも」、「安価に」アクセスできます。

双方の特徴をいかして発行を続けていきます。  
(高石正憲)

## 10号を振り返って

★平成27年1月の第1号から3年9カ月かかって第10号を発行することが出来ました。高齢化が進んでいる河内長野市民が元気で、楽しい人生を送るきっかけになればとの思いで「生き生きと輝いている人やグループ」を取材し紹介して頂きましたが、お役に立てたでしょうか。  
(金子征二郎)